

研究協力のお願ひ

この研究は、大阪医科薬科大学 研究倫理委員会にて審査され、研究機関の長の許可を受けたくて実施しております。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

大阪医科薬科大学 脳神経外科学教室

記

研究の名称	悪性神経膠腫の細胞浸潤能、遠隔再発に關与するバイオマーカーの探索
対象	2009 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日までの期間に神経膠腫に対して当院で手術された患者さんの腫瘍検体を研究に利用いたします。本学では、342 例を予定しています。
研究期間	研究実施許可日 ~ 2026 年 3 月 31 日
試料・情報の利用 目的及び利用方法	<p>利用目的：神経膠腫は脳内深部や遠隔で再発を起こすことから、予後不良の疾患として知られています。神経膠腫の再発に關するリスクファクター (バイオマーカー) を解明することは、神経膠腫の治療の発展に重要であると考へております。当教室の過去の研究では Actin, Alpha Cardiac Muscle1 (ACTC1) と呼ばれる細胞骨格の支持、また細胞運動、細胞内の物質輸送に關与する蛋白質が神経膠腫や髄膜腫といった脳腫瘍の浸潤に關与すること解明しており、ACTC1 やその關連遺伝子が、神経膠腫の深部、また遠隔部での再発のバイオマーカーになるのではないかと考へております。当教室では神経膠腫における ACTC1 やその關連遺伝子、蛋白質の発現を評価し、神経膠腫の再発メカニズムの解明に役立てようとして考へております。</p> <p>利用方法：患者さんの手術で摘出した神経膠腫の検体を免疫染色、PCR 検査を行</p>

	<p>い、ACTC1 とその関連蛋白質、遺伝子の発現を測定し統計解析を行います。また再発前後の検体がある場合は両者の間の発現量を比較解析します。電子カルテシステムを参照して、初診時の病変の数や画像所見上の腫瘍の浸潤の経過、予後などの臨床情報と各種蛋白質、遺伝子の発現に相関があるか検討します。抽出する検体情報は、診療情報と同様に厳重に管理され、個人を特定できる情報が漏れることはありません。研究結果は、個人を特定できないように対処したうえで、学会や学術誌で発表される予定です。本研究は日常診療を行った後に情報をまとめる形で行われる研究（観察研究）ですので、参加することによる直接的な利益や不利益はありません。また、本研究へ参加することで、新たに発生する自己負担はありませんし、謝礼金などありません。</p> <p>対象者の方（あるいは代理人）の申し出により、他の対象者等の個人情報保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究に関する資料を入手や閲覧できますので、ご希望される際は、下記の問い合わせ窓口までご連絡ください。</p>
<p>利用し、又は提供する試料・情報の項目</p>	<p>試料：神経膠腫の腫瘍検体</p> <p>情報：ACTC1 をはじめとする悪性腫瘍の脳転移のリスクファクターと予想される遺伝子、蛋白質の発現量。</p> <p>電子カルテから抽出する内容。</p>
<p>研究者名</p> <p>【研究責任（代表）者】</p> <p>大阪医科薬科大学 脳神経外科学 講師 野々口 直助</p>	

参加拒否の申し出について

ご自身の試料（血液等）や診療情報を研究に利用させて頂くことに対する問い合わせ、参加拒否を申し出たい場合は、下記の連絡先までお願いいたします（対象者の代理人からの申し出も受付いたします）。参加拒否の申し出をされた場合は、研究の対象から削除し、研究利用をいたしません。しかしながら、研究結果が出た後の参加拒否の申し出については、研究の対象から削除することができかねますので、予めご了承ください。

<問い合わせ窓口>

【研究機関】

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

大阪医科薬科大学 脳神経外科学教室

担当者 野々口 直助

連絡先 072-683-1221（代） 内線 2678

研究参加拒否書

大阪医科薬科大学 学長 殿
大阪医科薬科大学病院 病院長 殿

大阪医科薬科大学
研究責任者 野々口 直助 殿

研究の名称	悪性神経膠腫の細胞浸潤能、遠隔再発に關与するバイオマーカーの探索
-------	----------------------------------

私は、上記研究への参加について検討した結果、研究参加を拒否します。

年 月 日 対象者 住所

氏名（自署）

ご本人が自署できない場合は、代諾者の方がご記入ください。

代諾者（続柄： ）

住所

氏名（自署）